

TEI研究会2023-16研究会の記録

開催日時

2023年7月19日(水)10:20-12:00

参加者

氏名(所属)

永崎 研宣(一般財団法人人文情報学研究所)

岡田 一祐(慶應大学文学部)

中川 奈津子(国立国語研究所)

王 一凡(東京大学教育学研究科／人文情報学研究所)

邵 軒磊(ショウケンライ 台湾師範大)

藤原 静香(京都女子大学大学院／京都産業大学)

申 雄哲(檀国大学漢文教育研究所)

幾浦 裕之(国文学研究資料館)

主な話題

1.TEI関連活動の報告

▼幾浦氏:勅撰集の構造化について(画面共有にて報告)

- 現在は、『短歌ビューワ』で表示中
- 『古今和歌集』写本の紹介と諸問題
- 勘物(写本に記された注釈)・合点・声点など、現在利用される『新編国歌大観』に反映されていない情報もマークアップしたい
- 課題①清輔本(勘物多、定家の意識的な勅撰和歌集証本作成の端緒となった写本、定家本との異同多、『新編国歌大観』では利用出来ない写本の系統)のマークアップも将来的には行いたい。まずは定家本との校異情報をマークアップしていく。
- 課題②詞書・作者名の字下げをどのようにマークアップできるか。
＞永崎:単に<note>を字下げするといったようなことであればそういうルールを決めておけば viewerで対応できる。
 詞書きは2文字下げ。
 左注は上から3字下げ。
 <note type="詞書">(デフォルトは2文字下げ)
 <note type="左注">(デフォルトは3文字下げ)
 <persName></persName>和歌1首が何文字でできているのかによる。上から全角で15文字下げくらい。写本で頭の高さはみんな一緒にそろえているので、写本作成上、書写上で何らかの意識はあったはず。
 ⇒永崎への宿題
- 課題③:現在、勘物の作者注記のxml:idは和歌のものを利用して付けている。note1に対して付けたいところ。
- 現在の和歌研究は、本文研究と表現研究とですみ分けが起きている。清輔本の情報が公開できたならば、定家本一辺倒の『古今和歌集』研究が変えられるのではないか

- 質問

①歌人にID振ってるようなDBみたいなものはないのか？ 国書DBの著者IDは使える？

＞どうやら、現時点では無い

＞参考：仮名序真名序について、特定の出版物に依拠しない行番号を付与しよう と
うする試みは浅田徹「古今集両序に章・節番号を振ることの提案」(『平安 朝文学研
究』12巻,140-142頁,2003年12月)という提案がされたことはあった

②古今集声点は秋永先生の翻刻が出てないか？

＞[秋永一枝著『古今和歌集声点本の研究』:第167集](#)

③字下げは、見た目上の問題なのか、ほかに意味があるのか

＞要検討。日記類では、和歌のほうの方が下がるという逆転が起きる

「作者・書写者がどちらを重視していたかがわかる情報」。ただし典拠未確認

④TEIのタグ付けは、手作業なのか自動化しているのか

＞ほぼ手作業

⑤マークアップルールの文書化はしているか。まだであれば、文書化しながら作業すると
よい。あるいは、ヘッダーに随時記入していくのもよい。

＞まだ。2023.05予稿集のみ、公開中の広瀬本万葉集TEI化も参考に。

▼王氏：[日本語のための言語コード追加に関する意見募集\(草稿\)](#)

- 日本語方言について、言語コードに関する会議が実施されている。それに対する意見交
換が8月に予定されている。

参考：ISO 639 https://en.wikipedia.org/wiki/ISO_639

- 地域区分が時代によって異なる。現代の区分を広くとるほうが良いか。
＞本来は、地理区分と言語を分けて考えなければいけない

▼永崎・王氏：DHカンファレンスに参加した

▼岡田：日本古典籍TEI化の一例紹介

- Oxford 上代日本語のTEIマークアップ

＞オックスフォード・NINJAL上代語コーパス(ONCOJ)

<https://www.thebritishacademy.ac.uk/programmes/academy-research-projects/>

▼次の大きな発表の場はTEIカンファレンス2023